

社会福祉法人中信社会福祉協会
令和7年度 あい・アドバンス今井 地域連携推進会議議事録

- 1 日時 令和7年10月24日(金) 午前10時00分から午前11時45分まで
- 2 場所 あい・アドバンス今井会議室及び食堂
- 3 構成員

利用者	1名(施設入所利用者)
保護者	1名(保護者会長)
地域関係者	1名(地域民生委員)
福祉に識見のある方	2名(第三者委員)、1名欠席
行政担当者	欠席(所在地市担当者)
施設職員	4名(施設長、支援課長(サービス管理責任者)、庶務課長、 医務課長)

4 議事録

(1) 開会・施設長挨拶

施設長より、地域連携推進会議の目的と意義について説明があり、資料「構成員向け地域連携推進会議の概要」に基づき、会議の進行について案内がありました。

(2) 施設の近況報告

庶務課長より令和6年度の事業報告があり、利用者統計、事業概要、収支状況について説明がありました。支援課長より、外部連携(実習生、ボランティア、委託業者、連携機関、対外行事等)について報告がありました。医務課長より、感染症への対応状況について、最近の発生状況と感染対策の取り組みが共有されました。

(3) サービスの透明性に関する報告

サービス管理責任者より、利用者の日常生活の様子(班活動、行事イベント等)や地域ニーズへの対応(生活介護、短期入所、施設入所、日中一時支援)について報告がありました。庶務課長及び医務課長より、災害および感染症に関するBCP(事業継続計画)の策定状況と訓練実施について説明がありました。

5 利用者の権利擁護に関する報告

サービス管理責任者より、虐待防止委員会の取り組み、事故・ヒヤリハット事例、苦情対応の状況について報告がありました。また、利用者満足度アンケートおよび職員意識アンケートの結果と、それに基づく改善の取り組みについて共有されました。

6 意見交換・質疑応答

(1) 実習・感染症・サービス運営に関する質疑

Q：実習生の受け入れ期間や勤務内容は？

A：ひだまり館に宿泊して約10日間の実習。保育実習なので夜勤はなし。

Q：感染症対策として全員検査は行うのか？

A：状況に応じて全員検査を行うこともある。職員は症状があれば医療機関で検査。

Q：利用者減による収入減でサービスの質は落ちていないか？

A：サービスの質が落ちないように、節約できる部分で工夫して対応している。

Q：教育指導費や教養娯楽費の使い道と減少理由は？

A：利用者の活動（材料費や行事）に使用。感染症流行で活動が縮小したため減少。行事費はしっかり使い切っている。

Q：西駒郷の場所と同様の施設の有無は？

A：駒ヶ根市にある県立の大規模施設。中信圏域には同様の施設はなく、新設も難しい。

Q：今井にいる強度行動障害の利用者数は？

A：正確な人数は不明だが、重度支援対象者は多い。支援や環境の工夫で落ち着いて生活している人もいる。

(2) 短期入所・支援体制に関する質疑

Q：短期入所の利用状況と目的は？

A：現在ロング利用者はおらず、週1~2泊の定期利用が中心。将来の入所を見越した利用や家族のレスパイト目的が多い。

Q：利用日数の決まりは？

A：部屋数に限りがあるため計画的に調整。市からの支給量に応じて個別に決定。

Q：利用を断るケースとその後の対応は？

A：マンツーマン対応が必要な場合は断ることもある。体験利用を経てからの利用をお願いしている。断った後の利用先確認はケースによる。

Q：土日の支援体制やボランティアの協力は可能か？

A：土曜は事務所職員が1名勤務。支援員との連携強化が必要。ボランティアは減っているが、補助的な役割や掃除などでの協力は歓迎。

Q：家族会からの協力申し出については？

A：感謝の意を示し、必要時には声をかけたいと回答。

(3) 利用者の権利擁護・安全管理に関する質疑

Q：事故ヒヤリが多いことへの対応は？

A：利用者同士のストレスもあるが、安心して過ごせるよう職員もゆとりを持って支援にあたるよう努力している。環境の見直しも検討中。

Q：見守りカメラの設置状況と活用方法は？

A：屋外4台、屋内4台（廊下のみ）。常時監視はしておらず、事故時の検証に使用。

Q：薬に関する事故ヒヤリの現状は？

A：薬関連は4番目に多く、減少していない。他の利用者に薬を渡してしまう事例もあり、管理の徹底が必要。

7 参加者の感想（要約）

(1) マニュアルや夜勤体制の課題

利用者50人分のマニュアル作成は大変。夜間に災害が起きた場合、夜勤2人では対応が難しい。夜勤を増やすと日中の支援が手薄になる懸念も。

(2) 定員数の見直し提案

障害特性を考慮すると、入所50人は多すぎる。30人程度に減らし、個室化を進めるべき。残り20人はグループホームでの対応も検討すべき。

(3) 災害時の不安

災害発生時の対応に不安があるとの声。

(4) 地域との連携の必要性

今井周辺には多くの知的障がい者施設があるため、民生委員や地域住民との協力体制を築くことが重要。

(5) 施設の実情の理解

現状の課題や職員の苦労がよく理解できたとの声。地域住民には施設の実態が知られていないため、情報発信が必要。

(6) 社会とのつながりの重要性

入所者と社会とのギャップを埋める取り組みが必要。

(7) 地域へのアプローチの必要性

今井は地域から離れた場所にあるため、施設側から積極的に地域に関わっていく姿勢が求められる。

(8) 職員への配慮

現場の職員は頑張っているが、これ以上の負担を求めるのは酷。上層部が真剣対応を考えるべき。

(9) その他の感想

かつて元気だった利用者がいなくなり寂しさを感じた。

参加して楽しかったという前向きな声もあり。

8 今後の予定

今後も地域連携推進会議を継続的に開催し、施設と地域の相互理解と協力体制の構築に努めていく方針が確認されました。